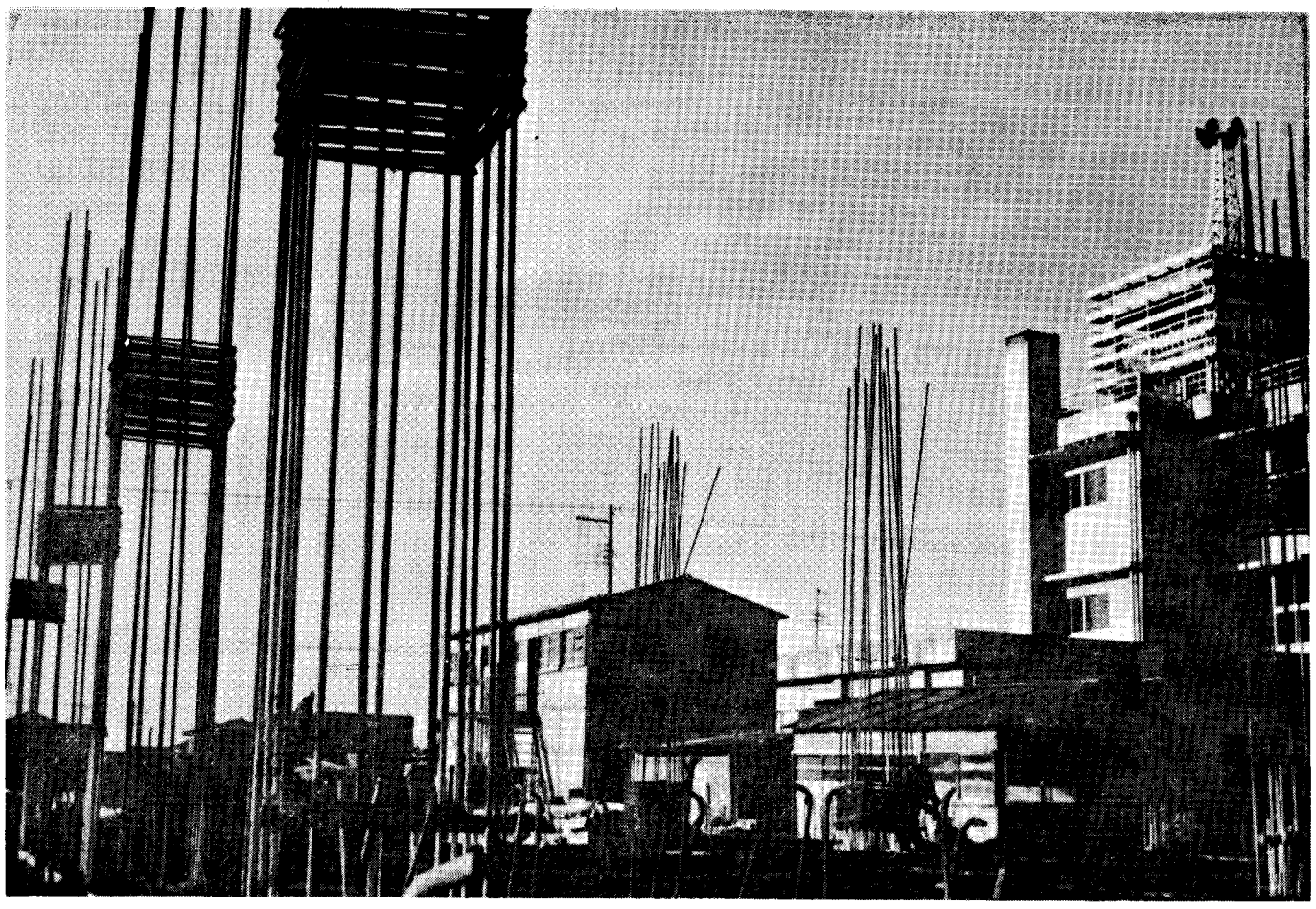
こすど公民館報
発行所 小須戸町公民館
発行人 間野良知
発行日 毎月15日
一部15円
印刷所 昭栄堂印刷所



建設進む社会教育センター

あなたも ご参加下さい

〈室内ゲーム大会〉

主催＝公民館

親と子のスキンシップをテーマに、楽しい計画をしています。親子で参加しましょう。なお個人参加も歓迎します。

—◇— 要　項 —◇—

◇日　時　一月二十六日(日)　午後一時三十分より

◇会　場　町民体育館

◇その他　運動できる軽い服装と運動靴を用意して下さい

新しい年を迎えて

公民館長　間野良知

昭和も五十年、輝かしい新春を迎えました。町民の皆さん、おめでとうございます。

昨年中は皆さんの多大なご協力、ご支援により運動に、ささやかながら足跡を残すことのできましたことを、厚くお礼を申しあげます。

激動する昨今の世情はますますこんとんとして年頭の挨拶に、センターの竣工と相まって、青少年の健全育成、体育施設の充実を重点施策にしたいと述べられております。

全くこの機こそ、社会教育全般にわたって、一大飛躍発展を期する絶好の時であると考えます。

今まで進めてきたスポーツの振興、花とみどりによる環境の美化・長寿大学・青年学級・青年団・婦人会その他各種文化団体の育成援助、町民運動会・文化祭等の年中行事等々の外にいろいろと新しいアイデアを求めて活動を開始したいものと考えます。

館(やかた)そのものの活用についても、今から十分検討しなければなりません。すばらしい近代的な図書室・視聴覚室・調理実習室・大小学習室・会議室・大ホール・ロビー等、すべて全町の皆さんのための学習の場として、憩いの場として、又社交場として効果的な機能を発揮させねばならないのであります。

町行政との一体化はもちろん、学校教育とも緊密な連携をはからねばなりませんが、私は何よりも皆さんの深いご理解とご支援、ご協力が大切であると考えます。

新しい施設を中心に、常にいきいきと躍動する社会教育活動を展開するために、皆さんどうぞ宜しくお願いいたします。

今日も現場では高らかに建設の機械の音がひびいております。希望に輝くこの新春を象徴するかのように……

館建つ槌音に
年明けにけり
良遊

私どもの心に絶え間のない不安と焦燥感を与えております。そして世直し運動としての社会教育の重要性が一層高く叫ばれてまいりました。それだけに又、私どもも、その責任の重大さをひしひしと身に感じております。

幸い本年は夢の殿堂であった社会教育センターが、六月末までに完成することになっております五十嵐町長も「町だより」

(菊地閑月書)

明けましておめでとうございます

町長　五十嵐重雄
助役　鬱田奈賀雄
〃　上田友男
収入役　高山三治
議長　松尾健一
副議長　他議員一同
教育委員長　岡田六衛
委員　川瀬弘一
〃　保科栄
〃　笠原省二
教育長　岡田寅男
社教委員長　楠原真次
中学校長　中野粂男
小須戸小　今井一夫
矢代田小　相馬英夫
高校主任　桜井猛
消防団長　須藤恩七
警察所長　北島正二
小須戸郵便局長　塩田正二
矢代田〃　保科栄
電報電話局長　山田久正
矢代田駅長　菅原末弥
商工会長　梅津英五郎
農協組合長　岡田六衛
連合老人会長　白井門蔵
連合婦人会長　松沢キヨ
〃青年団長　五十嵐力
連P会長　村山祐一
体協会長　渡辺欣二
東京小須戸会
会長　長谷川邦芳
副会長　伊藤広次
〃　笠原重雄
事務局長　和泉芳郎
他会員一同
特別会員衆議院議員
新潟小須戸会　米田東吾
会長　田中賢太郎
事務局長　加藤国一郎
公民館長　間野良知
副館長　木村敬三郎
〃　森田登
小須戸分館長　佐藤正雄
矢代田〃　高山三治
新保〃　川瀬弘一
横水〃　木村敬三郎
他本館分館役員一同
(順不同)

賀状ありがとうございました

新潟市の木伏基二様・木村達栄様・板井ムツ様その他各方面の方々から丁重な年賀状とご激励の言葉をいただきました。厚くお礼を申しあげます。(編集部)

長寿大学案内

一月後半～二月前半のクラブ活動計画です。全体学習はありません。

一月
一七日(金)書道ク
一九日(日)園芸ク
二〇日(月)運営委
二二日(水)家庭ク
二九日(水)民舞ク

二月
一日(土)囲将ク
三日(月)書道ク
五日(水)家庭ク
一二日(水)民舞ク
一五日(土)囲将ク

全員、元気に完走！

第三回 町民元旦マラソン大会

今年も天候に恵まれて約六十名が十時半、元気にスタート。全員無事に完走しました。

恒例の甘酒で疲れをいやした後、表彰式を行い最長老の熊倉さんの音頭で乾杯、終了しました。

各年代別の入賞者は次のとおりです。

一般男子の部
一位　長沢博英
二位　大貫角夫
三位　丸宝行晴

中学男子の部
一位　白川正人
二位　鬱田敏博
三位　小林光明

中学女子の部
一位　松沢朝子
二位　丸山裕子
三位　長沢幸和子

四十才代の部
一位　穴沢武雄
二位　田村栄
三位　川瀬哲治

五十才以上の部
一位　武藤武治
二位　東樹東一郎
三位　八木盛三郎
特別賞　熊倉平三郎

続小須戸風土記

越後の名医 渡辺利安(二)

柏大治

この医者については伝説らしいことを風土記に書いたことがあります。

竜玄新田の渡辺家には現在でも

利安
権右中弁藤原朝臣
俊将伝宣
権中納言藤原朝臣
治房宣春
勅許人宣叙法者

享保六年四月二十八日(一七二一)道服、中啓などがのっています。

それにしても当時の医者は、お殿医を除き身分は百姓、町人の中間位で田舎医者がどんなわけで法橋位を受けたのか甚だ興味もあり、実際のところ謎が多く法橋位を返上したともいわれているのに上記のものもあり、その真相をつかみかねていました。

渡辺家の古文書をいろいろ研究してみますと、この利安は通称(梨庵)といっていたようで、医学は五泉市橋田の吉祥寺の大和尚について習得したとありますので、早速吉祥寺の牧野実参先生から過去帳を調べて頂いた。

心空院鉄翁、利安庵主
寛政二庚戌歳六月十七日
(一七九〇)竜玄安之助

その後の寺記入号(福寿海堂)四代利安、大和尚とは当寺十九世無学絶宗大和尚正確のことはわからぬとの御返事でした。

この人は四代で年代の差があります。享保五年五月に新発田宝光寺に滞在中、京都の人、岡本伝右ェ門、武家か豪商か不明名字を許されているから身分のある人に間違いない。この人の難病を治療して全快させた。伝右ェ門は非常に喜び、そのお礼に京都へ招待を約したかねて念願の伊勢神宮にその年参拝しての帰路、岡本伝右ェ門方に逗留中小川坊城大納言様にお薬を差上げ病気平癒となった。越後の名医として享保六年四月二十八日に法橋位を許され帰国した。

江戸表の溝口公に披露すべく当時の小須戸組庄屋坂井与次兵衛に手続きをたのんだが、どんな理由か受付けられないので、享保七年信濃川を船で江戸へでむくため、小千谷まで来た際に急病となりいそぎ船を引きかえし、娘のいる臼井村中五郎方で歿した。法橋位は披露もされず、そのままになった。その後、五十九年もたった安永十年(九年)四月に朝廷より次代の利安に達しがあったものか新発田藩に達しがあったものか不明だが、先祖利安の功により法橋位を授くとの達しがあった。この主人公が過去帳にある四代利安のように思われる。新発田藩では驚いて自分の方から法橋位を受けるべく運動したに間違いないと、前の利安の法橋位の披露を知らないから、溝口藩からひどい圧力を受けた。家を改築したといい、馬を飼っているからといい、これに対し利安も強抗している。

四代心空院鉄翁、この人らしい。法橋位は返上している。伝説の中に史実がふくまっているという一つの例である。

青・婦・老の懇談会開催さる

激動の現代社会において、人間関係がますます複雑になってきているが、お互いに心の交流をはかろうと老人婦人・青年の代表が一堂に会し意見の交歓を行った。この催しは以前から行われており、年々参加者も増加し内容的にも充実したものになってきている。

去る十二月十五日、老人憩いの家において「明るく楽しい家庭を作るには、どのようにしたらよいか」をテーマとして、連合婦人会・連合青年団との共催で話し合い集会を開きました。

参会者は、長寿大学生をはじめ、他団体からの参加を得、百名余りの盛会で、来賓として町長さんがおいでになり、話し合いの中にまで加わっていただき、なごやかなうちに予定の四時終了いたしました。

以下、その概要をお知らせいたします。

話し合い形式は「パネルデスカッション」で、発表内容と話題提供者は次の方々でした。

1言葉使いについて
・社会生活と言葉使い　青年学級　吉田林哉
・家庭での言葉使い　長寿大学　堀川ミチ

2家庭生活と愛情の表現
・中間に立つ主婦の立場について　民舞クラブ　高橋キヨ
・夫婦げんかのおすすめ　長寿大学　伊藤藤三郎

3若者の願いと老人の願い
・若者　青年団五十嵐力
・年寄　長寿大　丸山清三郎
・助言と指導　中学校長中野粂男先生
・司会　社会教育指導員　萱森朝夫

話し合いの一部をお知らせしますと、言葉は社会生活上の潤活油（吉田）思いやりのある言葉で元気づけられる（堀川）おはよう、はい、いいえ、ありがとう、すみませんの言葉を、すなおな気持ちで使えれば一人前（萱森）言葉には内言と外言とがある。子どもは家庭的なよいふん囲気の中で育てること（中野）孫と姑の間に立つ主婦は、どっかと心を落ちつけて、家族の気分を上手に転換させる力を身につけること（高橋）老夫婦のけんかは恍惚防止に大切、身うちをけなさないように（伊藤）断絶をさけ、調和をはかるよう話し合いをもつようにしたい（五十嵐）余生を感謝の気持でくらしたい、老人なりに主張をもちながら生きたい（丸山）

「中野先生よりご指導」

モダン老人になってほしい。老人や父親は、わが家の歴史や人生を語って聞かせること。若者は年寄に対して尊敬と、いたわりの心を忘れないように。家庭は愛情を育てる教室であり、憩いの場とお互いに考え合い幸を確認し合う場である。そして家族皆んなで楽しい家庭をつくりたいという共通の願望をもつことが、明るい家庭づくりの第一歩ではなかろうか。と強調されました。

青年、婦人、老人の話し合い集会はこのたびで三回目、第一回（四七・二）小中高生も参加した発表会第二回（四八・一〇）老人生活、婦人生活、青年生活を中心とした分科会形式で行い、このたびで三回目である。

次回には、壮年層の参加者も期待しています。

家庭に、集会に、皆さん今年は機会あるごとに明るい家庭づくりを話題としていこうではありませんか。

なぎさ

スポーツで明るい年を

元旦マラソン大会で六十五才の熊倉平三郎さんが、今年も見事に完走されました。

表彰式で特別賞を授与され、カップを高くさし上げての喜びの姿は、正に壮者をしのぐ慨といってもよいと思います

「町だより」の町長さんのご挨拶にも、体育施設の充実を強く述べられております。わが町の年の始めはまずスポーツからといった感じでなんともいえないすがすがしい気分になりました

「健全なる精神は健全なる身体に宿る」これは古今を通じての金言であります。明るい豊かな町づくりには、全町民の体位の向上が、その根底ではないでしょうか。

その意味で、今年は昨年にもまして多くのスポーツ行事をもってもらいたいと思います。

特に新しい公民館が完成すれば、その記念行事としても大きな意義をもつものと考えられます。

公民館をはじめ、体育協会・各社会教育団体の皆さん、どうぞお願いいたします。

（元旦マラソンの一参加者）

原稿募集

何なりと皆さんのご意見をお寄せください。

（編集部）

若さを歌おう！

小須戸町青年歌

若さ！
なんという
うすばら
しい言葉
だろう。
年令的
な若さも
精神的な
若さもあ
るが、と
にかくそ
たくまし
さが満ちあふれている。
こには明るさ、
声はりあげて、みんなで
歌おう、このわれらの愛
誦歌を——。今度、小須
戸の町を背負って立つ青
少年のために新しい歌が
できました。題して〝若
人小須戸〟です。

スペースの関係で詞のみを発表しますが、楽譜ご希望の方は公民館へ。

若人　小須戸

作詞　吉田林哉
作曲　小柳浩平

一、堂々と　流れる川に
身を清め
育てた身体此の精神
社会のために捧げて
和すは
我ら小須戸の青年

二、緑なす　山に入りて
は杉おこし
大地を拓きてほがら
かに　力を合わせあ
せふき語る
我ら小須戸の青年

三、大らかに　心豊かに
手を結び
集う若人　輝ける
明日にたくして夢追
い生きる
我ら小須戸の青年

托鉢浄財

一六六、八一〇円

仏教会より

町の社会福祉事業へ

歳末助け合いの托鉢は例年にならって、全町を五日間にわたって修行いたしました。

年を追うごとに皆さまのあたたかいご支援が高まり、一七万円近い浄財を町長さんを通じ、町の社会福祉事業のために、ご寄附させて頂くことができました。

恵まれない方々のために、あるいは関係施設や事業に対し、有効に使われますことを念じております。

皆さま、本当にありがとうございました。

特に特別参加修行をいただきました新保の高山重太郎さん、中食のご供養を賜りました左記施主家に対し、厚く合掌感謝を申しあげます。

小須戸　砂井松一郎殿
新保　簑和耕四郎殿
天ヶ沢　板谷　昭一殿
矢代田　田沢　文雄殿
横川浜　池田　清六殿

他に有線放送のご奉仕
農業協同組合殿

（小須戸町仏教会）

◇町社会福祉協議会より

右記のことについて礼状文がきておりますが重複しますので省略させていただきます。

（編集部）

ライオンズクラブ園児にプレゼント

小須戸ライオンズクラブから、歳末のプレゼントとして、去る十二月二十三日に各保育園と幼稚園児一人一人にケーキのプレゼントがありました感謝いたします。

（町民生活課）

青年学級だより

忘年会はもちつき大会で

さる十二月十四日、学級生一同が公民館に集い忘年会を行った。

会に先だち、午後三時から〝もちつき大会〟を行ったが、軽快？な杵の音にさそわれて、チビッ子たちが大勢集まって、めずらしそうに見物。

そのうちに親子づれで参加し、出来たてのモチを賞味して、味の良さに思わず感嘆の声あり。

それもそのはず、本職のモチ屋さんまで参加して直接指導。

そのうえ、砂糖・醤油からつけ物まで差入れがあり一同大感激。

こんなに喜こばれるものなら、来年は新しい施設を使って「町民もちつき大会」をやろうという声が学級生から続出。

午後六時からは、水入らずの忘年会兼反省会。

来賓の公民館長さんと小柳浩平氏を囲み、手料理の鍋物に舌づつみを打つ……。来年のウサギ年には、大飛躍を遂げようと意気増々盛ん。

〔しりモチつくなよ！〕

私のたからもの

過ぎ来し方の思い出を秘めし和歌

二番町　川村ま津

私は十八才の春、川村家に嫁いでまいりました「喜びも悲しみも幾星霜」とか申しますが、現在八十一才、思えばいろいろと波瀾に富んだ六十三年間でありました。

その間の出来ごとや思い出を、習いおぼえた三十一文字に托したものが数百首残っております。

代々家に伝わる由緒ある書画骨董などもありますが、今の私にとってはこの和歌の一首一首が、何ものにもかえがたい尊いたからものであります。

そこには、その時折の私の涙が、ほほえみが、ねがいが、いや私の心のすべてがにじみこんでいるからであります。

もともとこうしたものは、そっとひとりだけの胸に秘めておきたいのでありますが、公民館からのたっての依頼であり、はずかしながらその数首をご披露させていただきます。

昭和十二年病重く医師より死の宣告をうけて

・渡り来し浮世の橋に
数々の
悲しき昔思い止めて
昭和十六年戦地の長男
よりの便り

・戦地より吾子が送りし
初便り
嬉し涙で読み終るかな
昭和十八年　二男出征
昭和十九年　三男出征

・子等三人（みたり）兵に
輝く勲（いさおし）を
立てて帰るを
ひた祈らなん

・国守る兵士なれば
尊くも
仰ぎ見るかな
吾子のすがたを
昭和三十年夫死去

・咲きほこる池辺の
つつじ見もやらで
夫は逝きしか
吾を残して

・思い出の涙はつきじ
今宵又
夫が残せし
詩集ひもとく

こどもクイズ

さあ！考えて？

つぎの問題の□の中に答えを書いて公民館へ。答え・住所・氏名・学年クラスをはっきり書いてハガキで送って下さい。正解者の中から五名の方に賞品をお贈りします。

一問　つるは千年
かめは□年

二問　一富士、二タカ
三□□□

三問　たくさんもらった
お□玉

前号の正解は
一問　松、二問　七草
三問　六　でした。

抽選の結果、次の方々へ賞品をお贈りしました。

出雲町　柏　みゆき　一年
横川浜　池田正子　二年
東蔵町　古寺規郎　二年
桜木町　田村やよえ　三年
矢代田　夏川久典　二年

会員相互の和を持って任じる我々ではあるが、やはりもっと大勢の仲間が欲しい。

来年に明るく大きな希望を抱きつつ、有意義な忘年会を終了し、帰宅したのでありマス。

俳句同好会忘年句会

小須戸町俳句同好会

忘年句座さびしき話し酒に呑む　四山
献血車来たりて街も師走かな　芳人
上京の土産の餅を母提げて　香月
星さえも光り凍てつく冬の道　白井
衣被て町の名士の社会鍋　樫男
枯草をむしり丸めて鍬洗う　虚秋
年寄りの肩吹きぬける襖風　静花
総理辞め今年忘れのしみじみと　太浪
托鉢の浄財重し年の暮　良遊

新年

出雲町　我妻清作

新玉（あらたま）の朝（あした）の光りやはらかく山近き町のひそかなりけり

ヨイショ！　（撮影　白井晃）

重くてもちあがらないや

〔写真コンテスト〕次回のテーマは〝節分・雪遊び〟多数ご応募下さい

寄贈図書

一番町の佐藤克雄殿より図書五冊のご寄贈がありました。ありがとうございました。

◇透明女　戸川昌子
◇青年の汚名　大江健三郎
◇野蛮人のネクタイ　石原慎太郎
◇野望の青春　梶山季之
◇流れる雲　源氏鶏太

購入図書

◇女の日時計　田辺聖子
◇彩の女上・下　平岩弓枝
◇大学生諸君　小島信夫
◇大岡越前　葉村彰子
◇自我の構図　三浦綾子
◇私の北壁　今井通子
◇娘の学校　なだいなだ
◇西郷隆盛　海音寺潮五郎
◇サンダカン八番娼館　山崎明子
◇失なわれた時への旅　NHK取材班
◇鑑賞百人一首　石田吉貞
◇おかあさん　サトウハチロウ
◇傷だらけの天使　江守哲郎
◇五代将軍　南条範夫
◇永紋　渡辺淳一
◇灯らない窓　仁木悦子
◇葦の浮船　松本清張
◇すべての船は過去をのせる　曽野綾子